

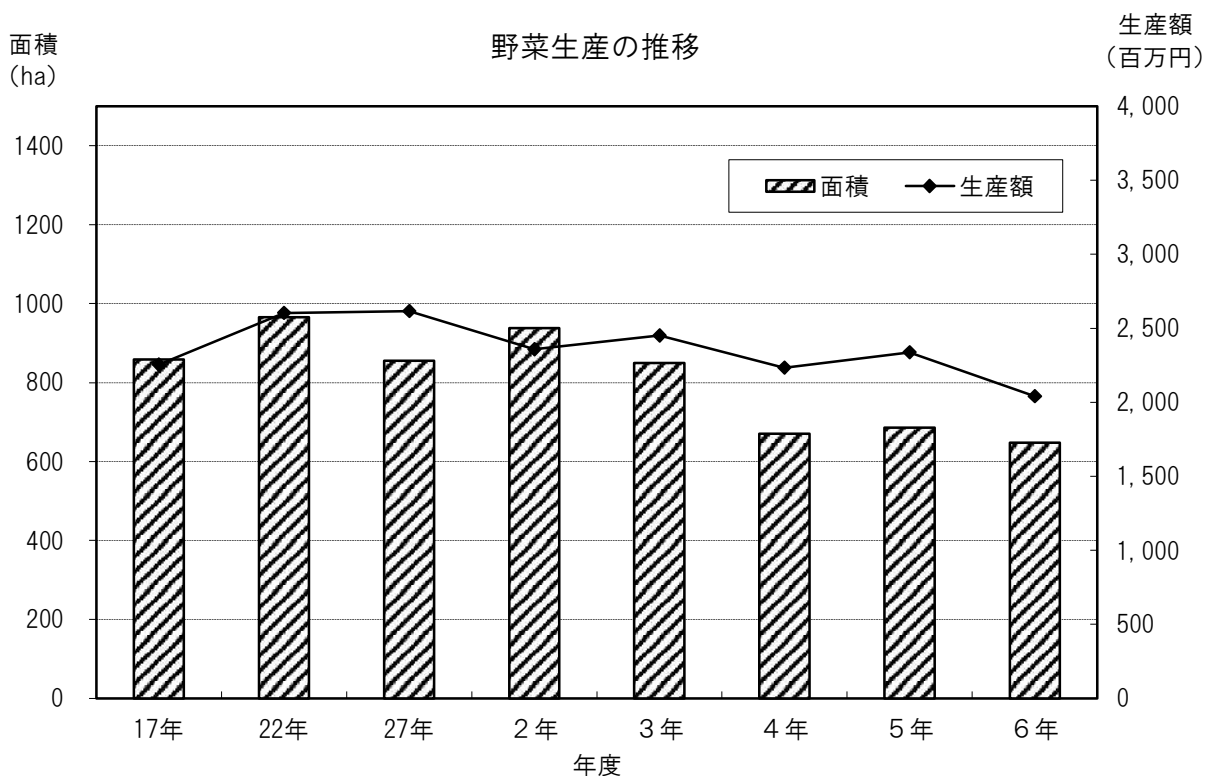
第3節 作物別生産の概況

1. 園芸

(1) 野菜

温暖な気候を活かして早春期のばれいしょを中心に産地化されているほか、種子島では全国的に知名度の高い安納いもやスナップえんどう、ブロッコリー等、屋久島ではやまいもや実えんどう等が生産されている。

なお、各品目部会では積極的に「かごしまの農林水産物認証制度」に取り組み、安心・安全な野菜生産に努めている。



野菜生産の推移

単位：ha, 百万円

年度	面積	生産額
17年	858	2,255
22年	966	2,604
27年	855	2,616
2年	938	2,357
3年	850	2,451
4年	670	2,235
5年	686	2,338
6年	648	2,041

ア ばれいしょ

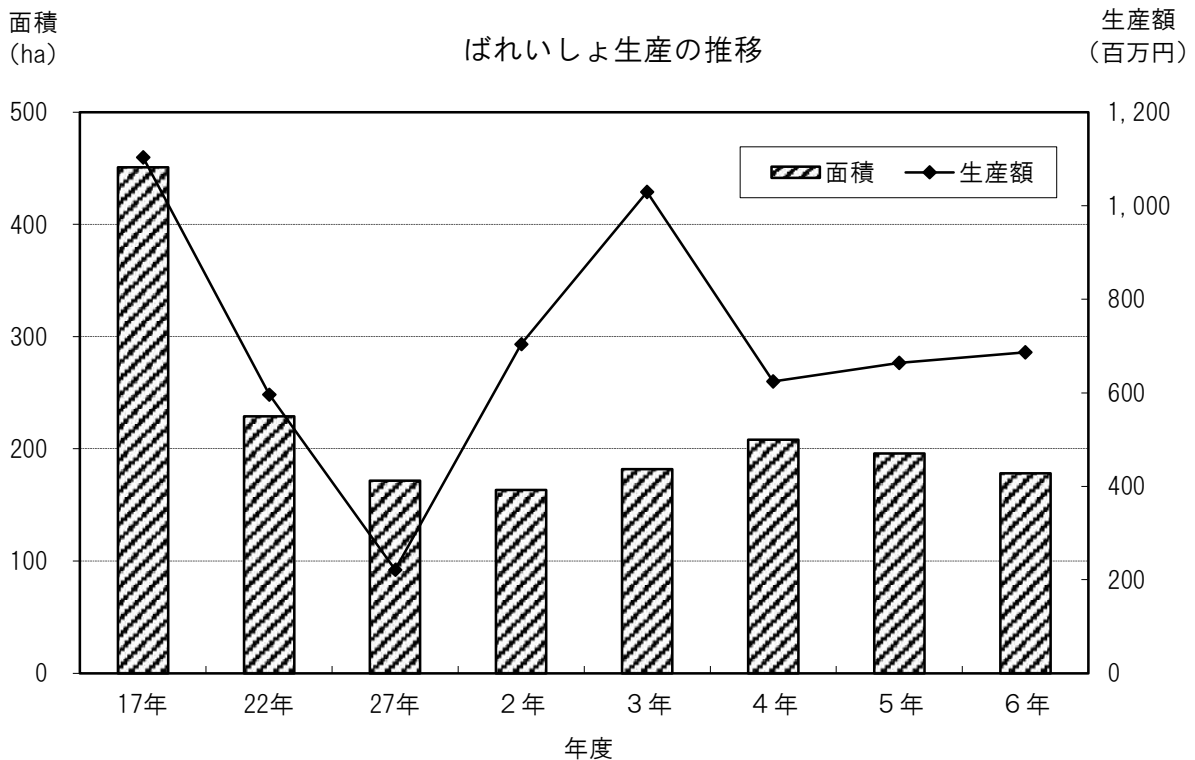
管内の主力園芸品目であり、熊毛地域は鹿児島県産ばれいしょのリレー出荷（奄美～種子島～肝属～長島）の一産地を担っている。

作付面積は、平成17年度に約450haまで拡大したものの、販売価格の下落や病害等の影響により減少し、近年はほぼ横ばいで推移している。

管内全市町のJAばれいしょ部会は「かごしまの農林水産物認証制度」の認証を取得しており、安心・安全なばれいしょ栽培に取り組んでいる。

また、令和6年12月には出荷販売を行う種子屋久農業協同組合がかごしまブランド団体の認定を受けている。

なお、西之表市では地場産種いもの供給体制が整備されており、優良種苗の確保に努めている。



ばれいしょ生産の推移

単位：ha, t, 百万円

年度	面積	生産量	生産額
17年	451	7,480	1,104
22年	229	4,906	596
27年	172	1,546	221
2年	163	2,800	704
3年	182	4,550	1,030
4年	208	3,823	624
5年	196	4,050	664
6年	178	2,931	686

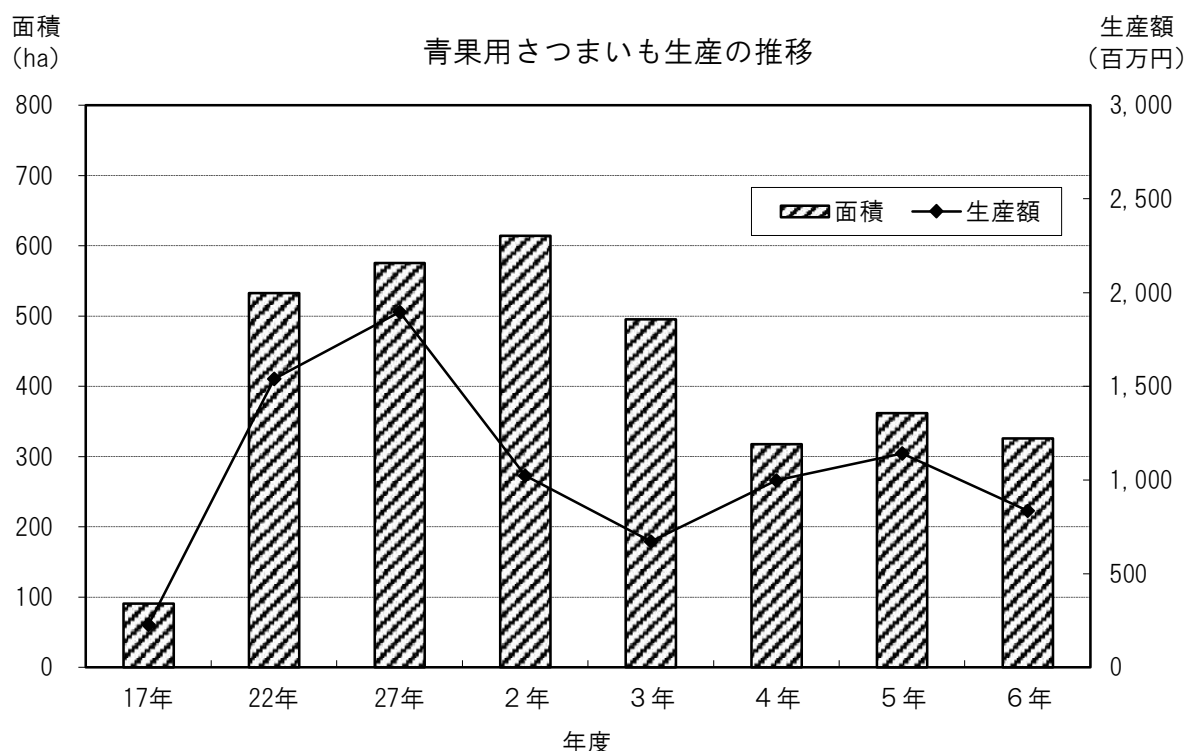
イ 青果用さつまいも

種子島在来の主要品種「安納いも」は、ねっとりとした食感と甘さが特徴的で、全国的に知名度が高い。

平成22年7月に設立された「安納いもブランド推進本部」は、栽培・貯蔵基準の設定や糖度検査、GAP認証取得により、地域独自のブランド化と品質・安全性の担保に努めている。

また、令和4年3月には「種子島安納いも」が地理的表示（GI）保護制度に登録され、産地一体となって島内外へのPR活動に取り組んでいる。

令和3年から拡大したサツマイモ基腐病の被害は、生産者の防除対策の徹底により減少傾向にある。栽培面積・生産額は被害拡大前の水準まで回復していないものの、単収は増加している。



青果用さつまいも生産の推移

単位：ha, t, 百万円

年度	面積	生産量	生産額
17年	91	1,394	228
22年	533	8,559	1,540
27年	576	10,180	1,897
2年	614	6,524	1,023
3年	495	4,113	672
4年	318	3,573	998
5年	362	4,764	1,142
6年	326	4,229	836

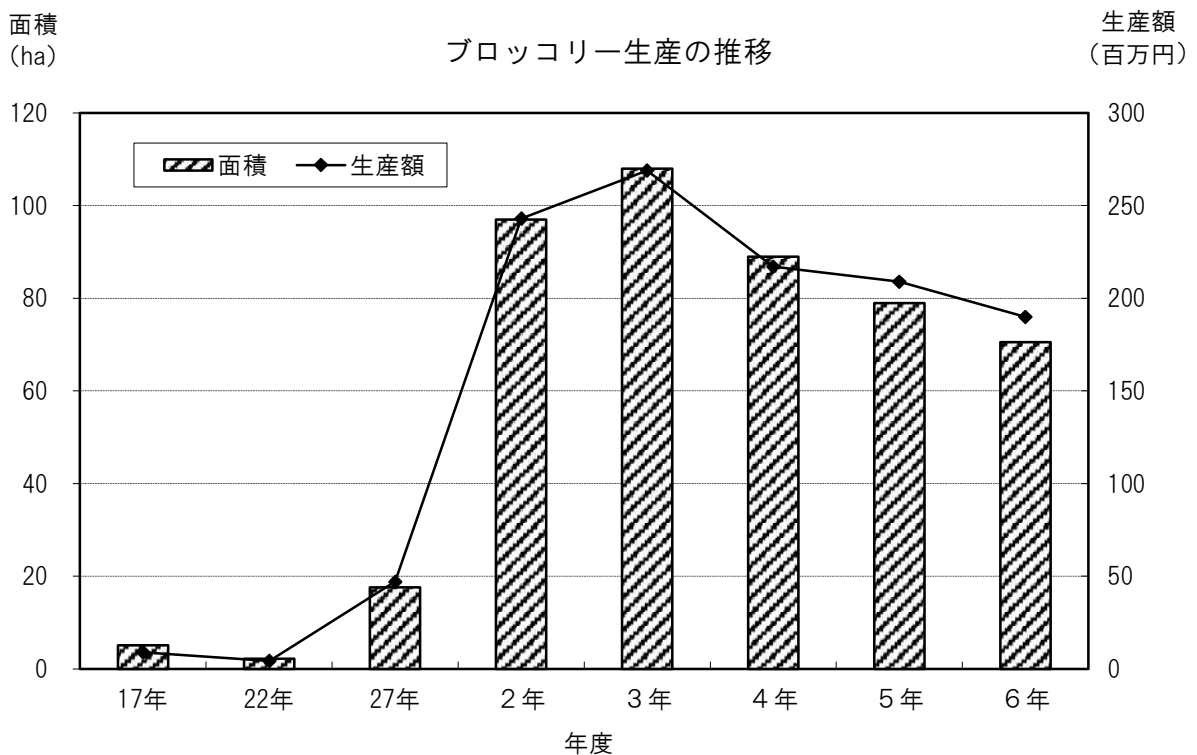
ウ ブロッコリー

露地栽培で春どりが可能であり、さつまいもの後作として栽培できることから生産が拡大した。

栽培が比較的容易で、契約取引により単価が安定しているため、中種子町を中心に産地化が図られ、令和3年度には作付面積が108haまで拡大し、県内有数の産地となっている。

西之表市野菜部会協議会果菜類部会及びJA種子屋久中種子町園芸振興会ブロッコリー部会は「かごしまの農林水産物認証制度」の認証を受けており、安心・安全な栽培に取り組んでいる。

また、令和4年4月には出荷販売を行う種子屋久農業協同組合が、かごしまブランド団体の認定を受けている。



ブロッコリー生産の推移

単位：ha, t, 百万円

年度	面積	生産量	生産額
17年	5	45	9
22年	2	14	4
27年	18	111	47
2年	97	669	243
3年	108	789	269
4年	89	616	217
5年	79	587	209
6年	71	467	190

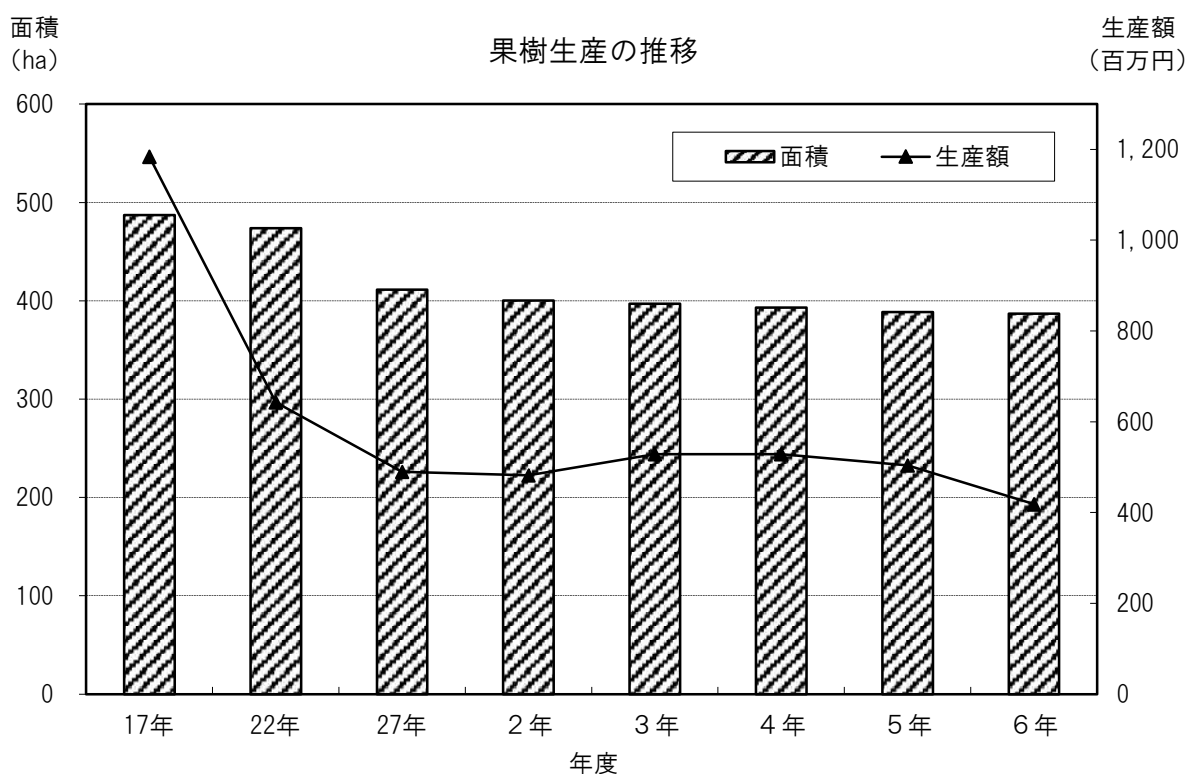
(2) 果 樹

温暖な気候を活かし、屋久島を中心にぼんかん、たんかんの産地化が図られているほか、マンゴー、パッションフルーツの栽培も行われており、屋久島では作付面積の7割を果樹が占めている。

また、屋久島のたんかんと種子島のマンゴーは、出荷販売を行う種子屋久農業協同組合がかごしまブランド団体の認定を受けている。

※「かごしまのたんかん」：R4. 3. 31認定（屋久島町）

「かごしまのマンゴー」：R6. 3. 29認定（中種子町，南種子町）



果樹生産の推移

単位：ha, t, 百万円

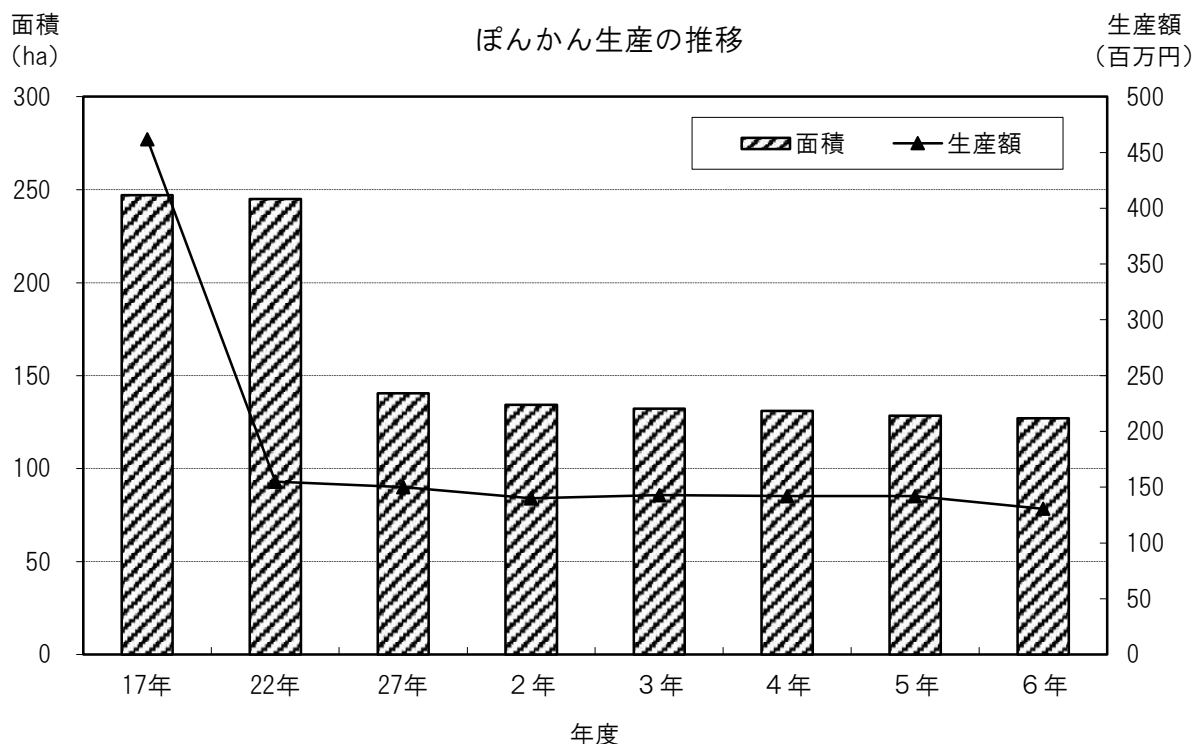
年度	面積	生産量	生産額
17年	487	3,889	1,184
22年	474	2,342	643
27年	411	1,195	490
2年	400	1,176	482
3年	397	1,439	529
4年	393	1,245	529
5年	389	1,114	504
6年	387	715	419

ア ぽんかん

大正13年、黒葛原兼成（つづらはらかねなり）氏によって台湾から屋久島へ苗木が取り寄せられ（同氏は昭和11年に下屋久村村長となる）、令和6年には導入から100年が経過した。

令和6年産実績では、屋久島町が県内一の作付面積を誇る主要産地となっており、熊毛地区での近年の作付面積は約130haで推移している。

現在は年末の贈答用として販売されており、品質向上を図るため、す上がりや水腐れの少ない優良品種への転換が進められている。



ぽんかん生産の推移

単位：ha, t, 百万円

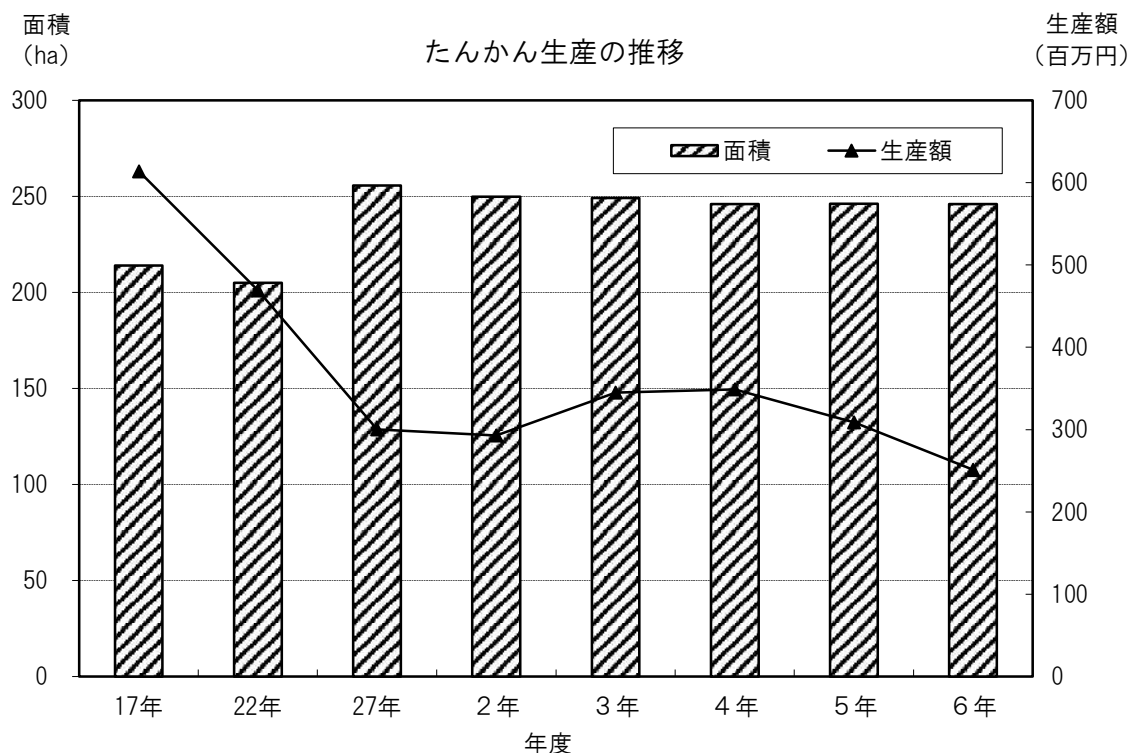
年度	面積	生産量	生産額
17年	247	1,718	462
22年	245	850	155
27年	141	439	150
2年	134	352	140
3年	132	470	143
4年	131	385	142
5年	128	376	142
6年	127	233	131

イ たんかん

屋久島では、県内で最初に導入された光センサーによる選果が行われており、高品質な果実の厳選と計画出荷に努めている。

令和6年産実績では、屋久島町が県内一の作付面積及び生産量を誇る主要産地となっており、熊毛地区での近年の栽培面積は約250haで推移している。

また、平成18年からは「かごしまの農林水産物認証制度」の認証を受けており、安心・安全で消費者に信頼される産地づくりにも取り組んでいる。



たんかん生産の推移

単位：ha, t, 百万円

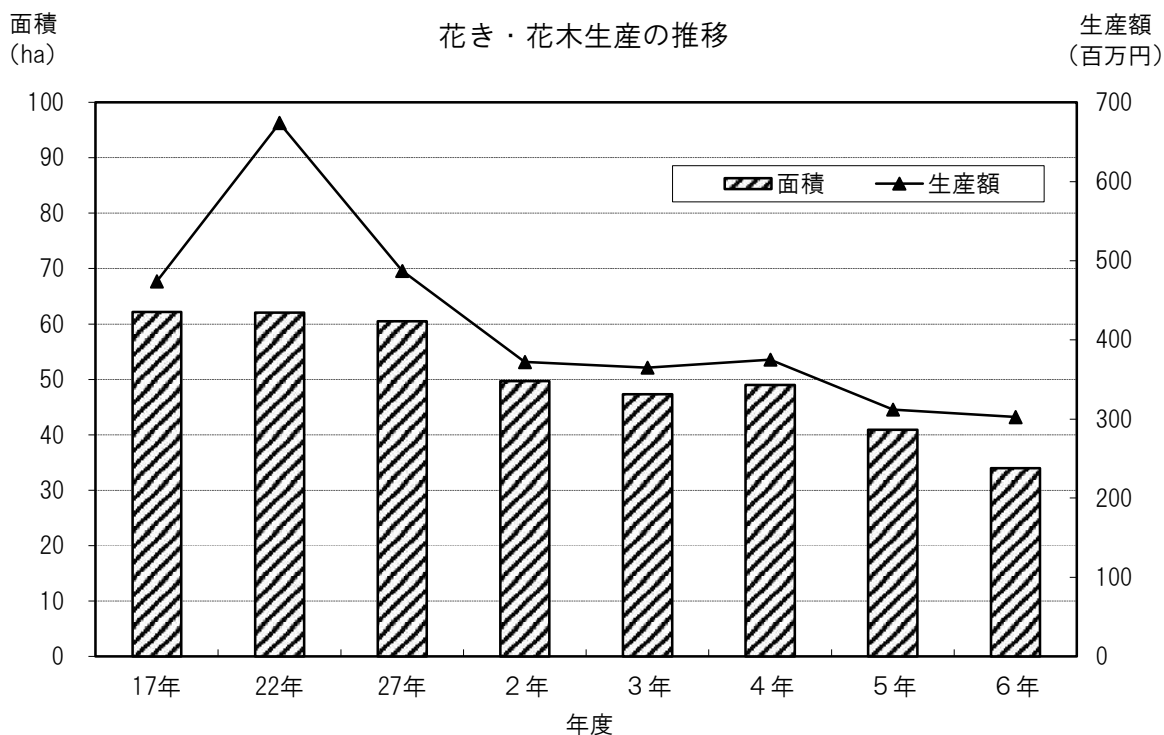
年度	面積	生産量	生産額
17年	214	938	614
22年	205	1,331	469
27年	256	719	301
2年	250	780	293
3年	249	931	345
4年	246	828	349
5年	246	690	309
6年	246	451	251

(3) 花き・花木

温暖な気候を活かして、レザーリーフファン、フェニックス・ロベニー、ドラセナ等の葉物類、フリージア等の球根類、スプレーギク等の切り花類が生産されている。近年はシキミやヒサカキ等の枝物類の生産も拡大している。

また、レザーリーフファンは、種子屋久農業協同組合がかごしまブランド団体の認定を受けている。

※「かごしまのレザーリーフファン」：R4.3.31認定（西之表市、中種子町、南種子町）



花き・花木生産の推移

単位：ha, 百万円

年度	面積	生産額
17年	62	474
22年	62	674
27年	61	487
2年	50	372
3年	47	365
4年	49	375
5年	41	312
6年	34	303

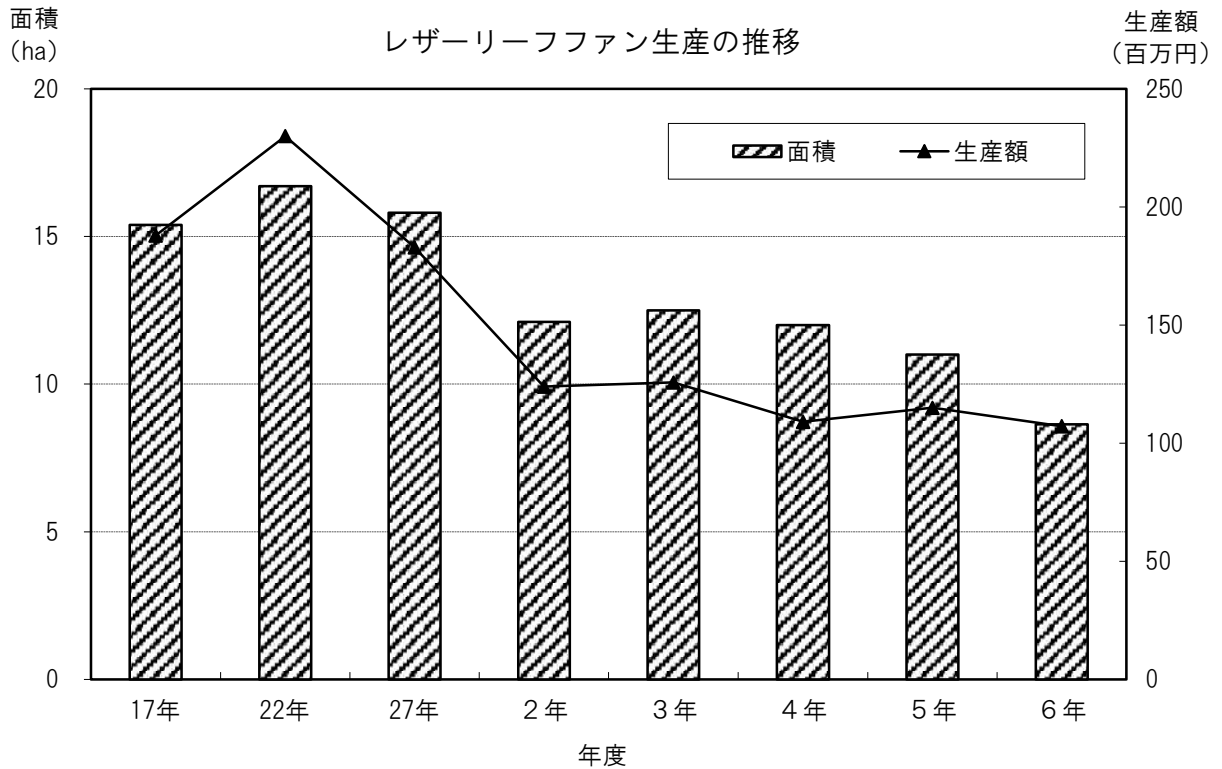
ア レザーリーフファン

種子島の気候と土壌条件に適した品目として昭和60年に導入され、30年以上にわたって生産されている。

種子島のレザーリーフファンは、日持ちが良好で品質も優れていることから、輸入品が多い市場において高く評価されている。

令和6年3月には「種子島レザーリーフファン」が地理的表示（GI）保護制度に登録され、さらなる認知度向上と販路拡大が期待される。

需要の多い冬期の出荷量が少ないことや、栽培施設の老朽化等が課題であり、関係機関が一体となって対策に取り組んでいる。



レザーリーフファン生産の推移

単位：ha, 百万円

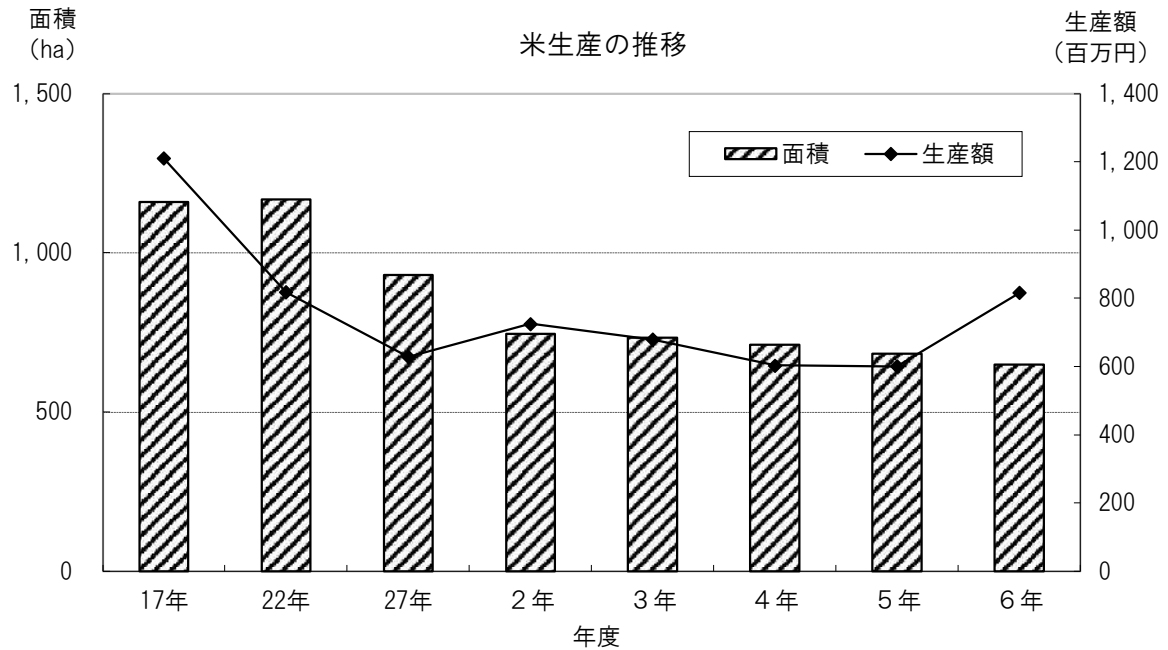
年度	面積	生産額
17年	15	188
22年	17	230
27年	16	183
2年	12	124
3年	13	126
4年	12	109
5年	11	115
6年	9	107

2. 地域特産物

(1) 米

当地区の水稻は、全て早期水稻である。例年、7月中～下旬には出荷が始まる「日本一早いコシヒカリ」の産地として、品質向上と安心・安全な米づくりに取り組んでいる。

令和6年度の作付面積は、高齢化等により、前年度より34ha少ない648haであった。作付面積、生産量は減少したものの、米の価格高騰により、生産額は増加した。



米の生産の推移

単位：ha, t, 百万円

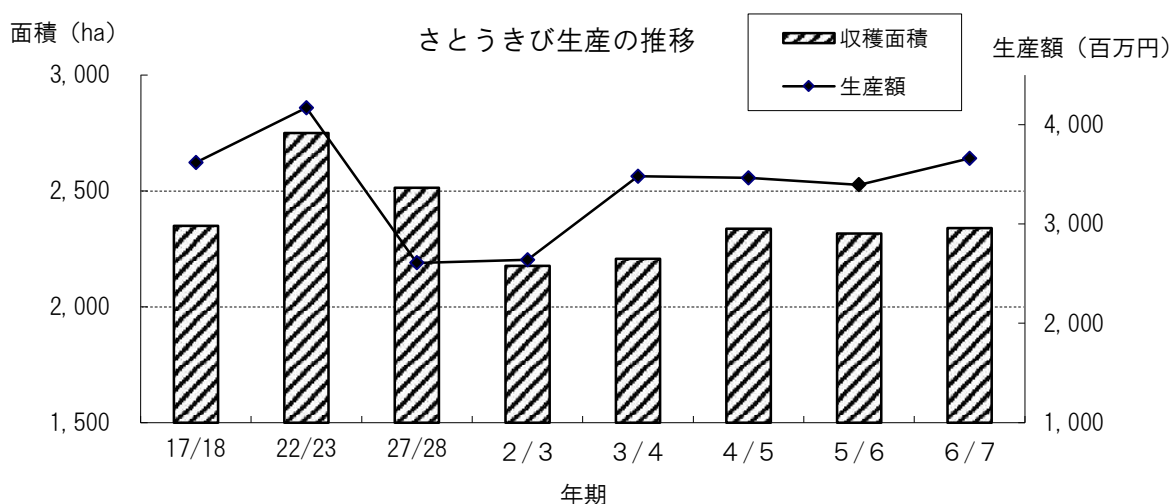
年	面積	生産量	生産額
17年	1,160	5,090	1,210
22年	1,168	4,710	818
27年	930	3,310	628
2年	745	3,085	725
3年	734	3,065	679
4年	710	2,986	603
5年	682	2,822	601
6年	648	2,590	816

(2) さとうきび

令和6／7年期のさとうきびは、収穫面積が前年より23ha増加し、2,339ha（前年比101%）となった。

台風10号の影響はあったものの、概ね順調な生育であり、生産量は161,354 t（前年比114%）で、収量は6,898kg/10a（前年比113%）となった。

原料買入甘蔗糖度は、平均12.69度（前年度13.48度）で、基準糖度帯未満（13.1度未満）が65.5%（前年度34.5%）で、基準糖度帯以上は34.5%（前年度65.5%）となった。



さとうきび生産の推移

単位：ha, t, 百万円

年期	収穫面積	生産量	生産額
17/18	2,349	188,665	3,619
22/23	2,749	197,917	4,170
27/28	2,513	125,292	2,609
2/3	2,176	125,332	2,638
3/4	2,207	153,197	3,479
4/5	2,337	154,941	3,464
5/6	2,316	141,589	3,394
6/7	2,339	161,354	3,662

令和6／7年期さとうきびの品質

項目 市町名	受入数量 (t)	甘蔗糖度階層別内訳 (%)			甘蔗糖度		
		基準帯未満	基準帯糖度	基準帯以上	最高	最低	平均
西之表市	47,375	64.8	27.3	8.0	17.6	8.2	12.6
中種子町	83,909	63.0	29.8	7.1	17.1	8.5	12.8
南種子町	29,570	73.4	20.5	6.2	16.4	9.1	12.5
計	160,853	65.4	27.3	7.2	17.6	8.2	12.7

※計の欄は、端数処理により必ずしも一致しない。

新光糖業報告

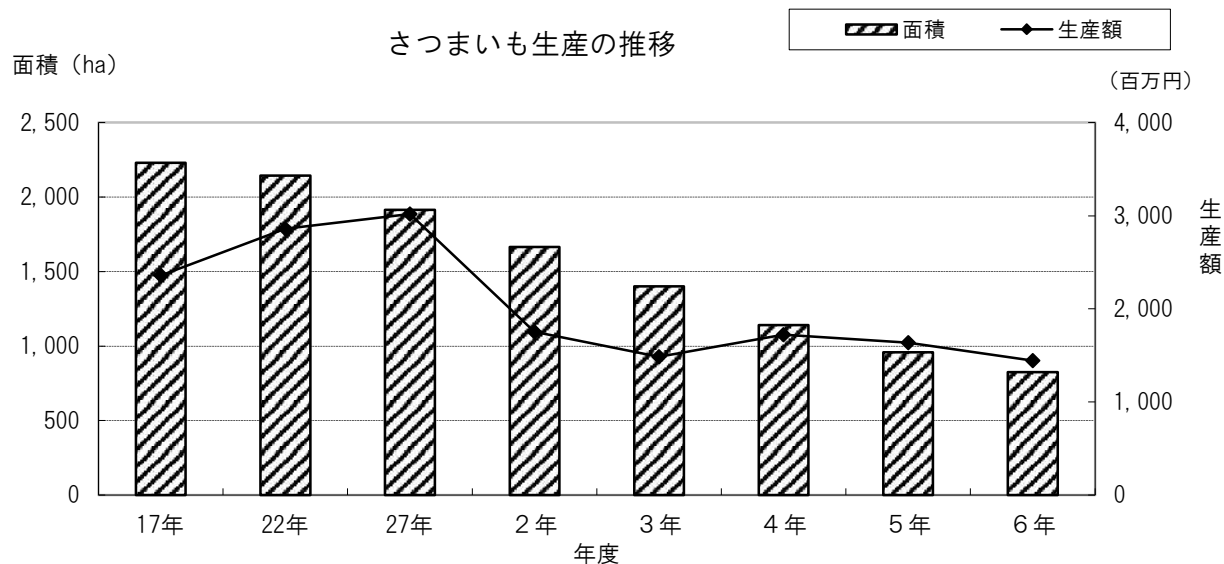
※受入数量は、分蜜糖向け原料の数量であり、生産量の内数である。

(3) さつまいも

令和6年度のさつまいもの作付面積は、前年度より133ha少ない825haとなった。

作付面積の減少により、生産量は14,940 t (前年比95%)と減少した。

でん粉用さつまいもの生産量は9,246トン(前年比91%)と減少し、種子島内の3工場における操業率は、16.5%(前年18.0%)と低下した。



さつまいも生産の推移

単位: ha, t, 百万円

年度	面積	生産量	生産額
17年	2,230	62,795	2,359
22年	2,145	44,546	2,859
27年	1,914	39,729	3,019
2年	1,665	25,980	1,752
3年	1,399	24,686	1,484
4年	1,141	18,866	1,722
5年	958	15,793	1,638
6年	825	14,940	1,443

※ 数値は青果用, 原料用の合計値

用途別さつまいも生産量の推移

単位: t, %

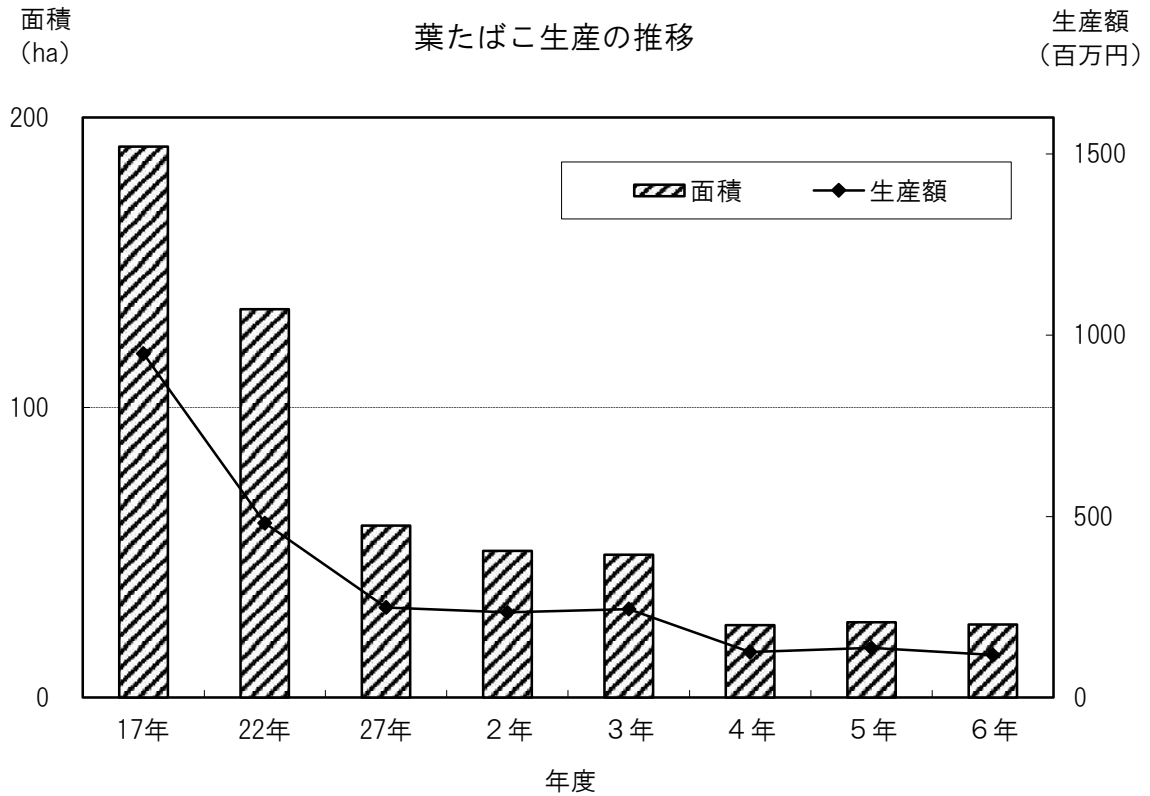
用途	4年	5年	6年
でん粉原料用	14,231	10,124	9,246
焼酎原料用	1,062	905	1,465
青果用※	3,573	4,764	4,229
合計	18,866	15,793	14,940
でん粉用割合	75.4	64.1	61.9
焼酎用割合	5.6	5.7	9.8

※ 青果用には加工食品用, 飼料用, 種子用, 自家食用を含む

※ 市町報告

(4) 葉たばこ

令和6年産は栽培面積25ha（前年比 97%），生産量57t（前年比 80%）で，ともに前年より減少した。



葉たばこ生産の推移

単位：ha, t, 百万円

年度	面積	生産量	生産額
17年	190	491	949
22年	134	240	481
27年	59	121	249
2年	51	111	234
3年	49	123	244
4年	25	63	126
5年	26	71	137
6年	25	57	118

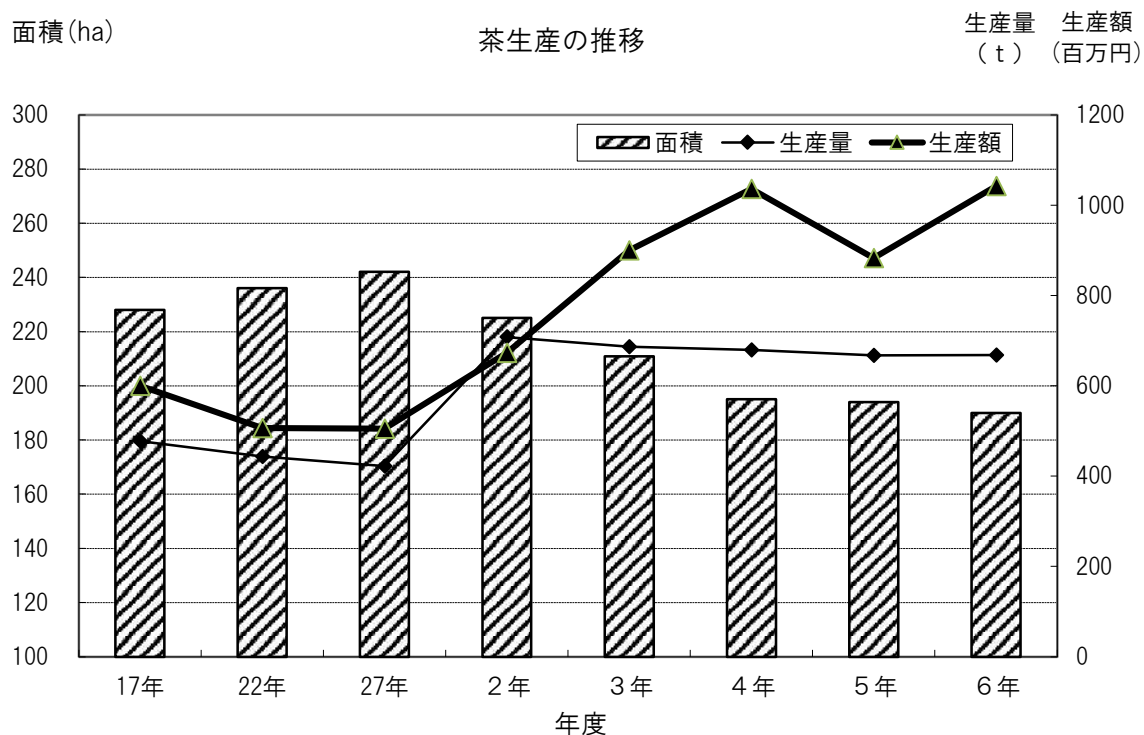
※ 3年まで：県たばこ耕作組合集計

※ 4年以降：市町報告

(5) 茶

温暖な気候条件を生かした「日本一早い走り新茶の産地」としての銘柄向上を図るため、品質向上に取り組むとともに、販路拡大を図るため、GAP取得工場の記帳支援や有機JAS認証取得など消費者ニーズに応じた高品質で安心・安全な茶づくりを推進している。

令和6年産の荒茶生産量は668t（前年比100.1%）で、生産額は1,042百万円（同118.0%）と前年に比べて増加した。



茶生産の推移

単位：ha, t, 百万円

年度	面積	生産量	生産額
17年	228	477	600
22年	236	443	506
27年	242	422	505
2年	225	708	673
3年	211	687	900
4年	195	679	1,036
5年	194	667	883
6年	190	668	1,042

※市町報告

3. 畜産

(1) 振興対策

熊毛地域は、子牛生産を中心とした肉用牛、大規模化が進んだ酪農、肉質の優れた黒豚を主体とする養豚及び島内消費向けの採卵鶏など畜産が盛んな地域である。

肉用牛は、専門化が進んでいるものの、さとうきびやさつまいもなどとの中小規模の複合経営が主体の子牛生産地域である。子牛生産地域としての地位を守り、生産基盤の維持拡大を図るため、産肉能力の優れた優良繁殖雌牛の自家保留・導入および適正更新を推進するとともに、資材高騰の状況下において低コスト生産体制を強化するために、飼料生産基盤に立脚した経営体の育成を図っている。

乳用牛は、需要の動向に見合った計画生産を基本として土地基盤に立脚した経営体の育成、飼養管理技術の向上による経営の安定化を図っている。

豚は、環境と調和した飼養環境づくりと併せて、飼養管理技術の向上を図っている。

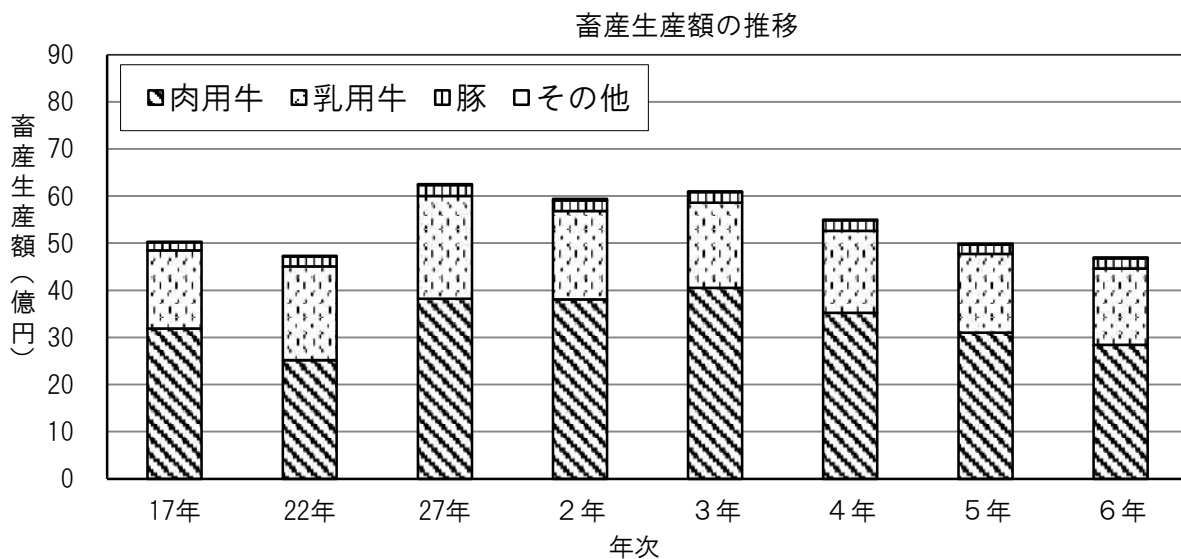
また、草地開発や農地の有効利用による飼料作物の作付面積の拡大を図るとともに、さとうきび副産物、でん粉粕やさつまいも茎葉等の低・未利用資源の活用推進や飼料生産組織の活動強化等により、飼料自給率の向上を図っている。

さらに、高齢化や大規模化が進む中で、労働負担の軽減と経営の効率化・高度化を図るため、情報通信技術（ICT）の活用も推進している。

(2) 畜産の生産額

令和6年の生産額は4,697百万円（対前年比94.2%）と前年より減少し、熊毛地域農業生産額全体に占める割合は約34%となった。

また、畜産生産額のうち、肉用牛が全体の約60.5%、次に乳用牛が約32.3%で、併せて全体の約92.9%を占めている。



畜産生産額の推移

単位：億円

区分	17年	22年	27年	2年	3年	4年	5年	6年
肉用牛	31.9	25.2	38.2	38.1	40.5	35.2	31.0	28.4
乳用牛	16.6	19.9	21.8	18.7	18.1	17.4	16.7	16.2
豚	1.7	2.1	2.3	2.3	2.2	2.2	2.0	2.2
その他	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2
合計	50.3	47.3	62.5	59.5	61.0	55.0	49.9	47.0

注1) 平成17年は九州農政局鹿児島農政事務所「鹿児島県生産農業所得統計」

注2) 平成22年以降は熊毛支庁調べ

注3) 合計の欄は、端数処理により、必ずしも一致しない。

(3) 肉用牛

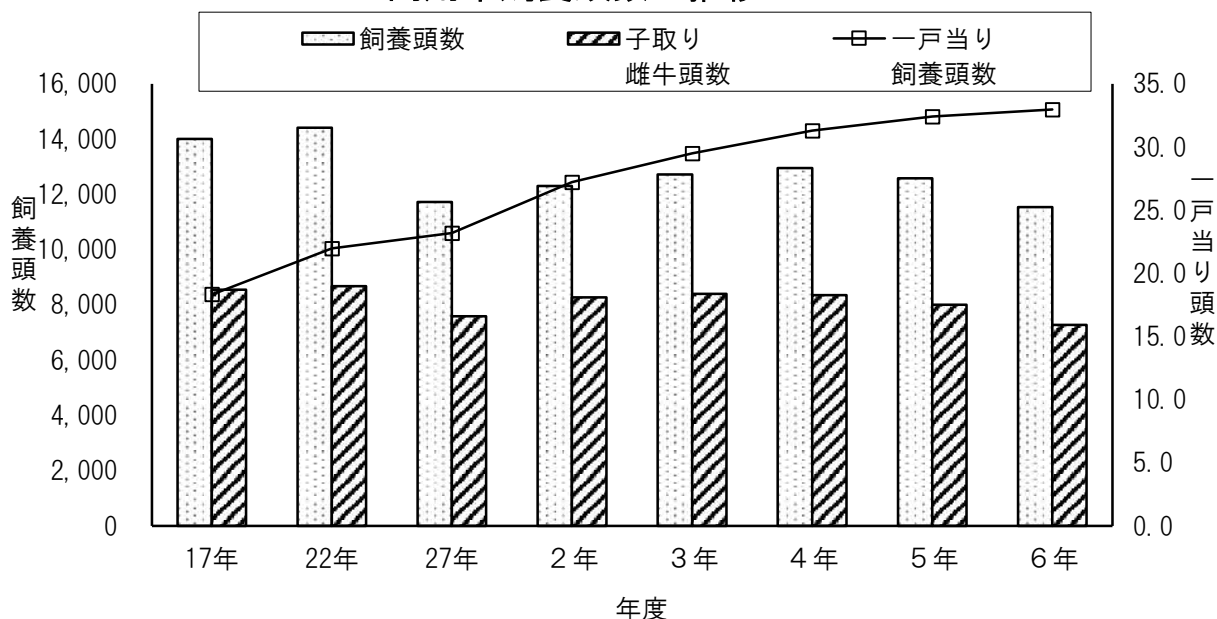
ア 飼養動向

令和6年度の飼養戸数は、350戸（対前年比90.2%）と年々減少傾向にある。

飼養頭数について、平成28年度以降は増加傾向で推移してきたが、令和6年度は11,536頭（同91.7%）で、令和5年度以降、減少に転じている。

子牛生産では、曾於、大島、肝属、始良、薩摩に次ぐ県内6番目の産地であり、1戸当たりの飼養規模は肉用牛全体で64.2頭（同105.8%）となっており、規模拡大が進んでいる。

肉用牛飼養頭数の推移



肉用牛飼養戸数と飼養頭数の推移

単位：戸・頭数

年度	農家戸数	飼養頭数	子取り雌牛頭数	一戸当り飼養頭数	一戸当り飼養頭数(県)
17年	764	14,000	8,540	18.3	23.4
22年	656	14,400	8,670	22.0	30.3
27年	506	11,720	7,586	23.2	37.1
2年	452	12,300	8,270	27.2	49.9
3年	431	12,710	8,390	29.5	50.5
4年	414	12,950	8,350	31.3	56.3
5年	388	12,580	8,000	32.4	60.7
6年	350	11,536	7,271	33.0	64.2

市町別飼養戸数と飼養頭数

単位：戸・頭数

区分	農家戸数	飼養頭数	子取り雌牛頭数	一戸当り飼養頭数
西之表市	146	3,536	2,363	24.2
中種子町	121	4,438	2,750	36.7
南種子町	68	2,566	1,668	37.7
屋久島町	15	996	490	66.4
計	350	11,536	7,271	33.0

注) 熊毛支庁調べ(令和7年2月1日現在)

注1) 平成17年度は九州農政局鹿児島農政事務所「畜産統計」

注2) 平成22年度以降は鹿児島県畜産振興課調べ、熊毛支庁調べ

イ 子牛価格

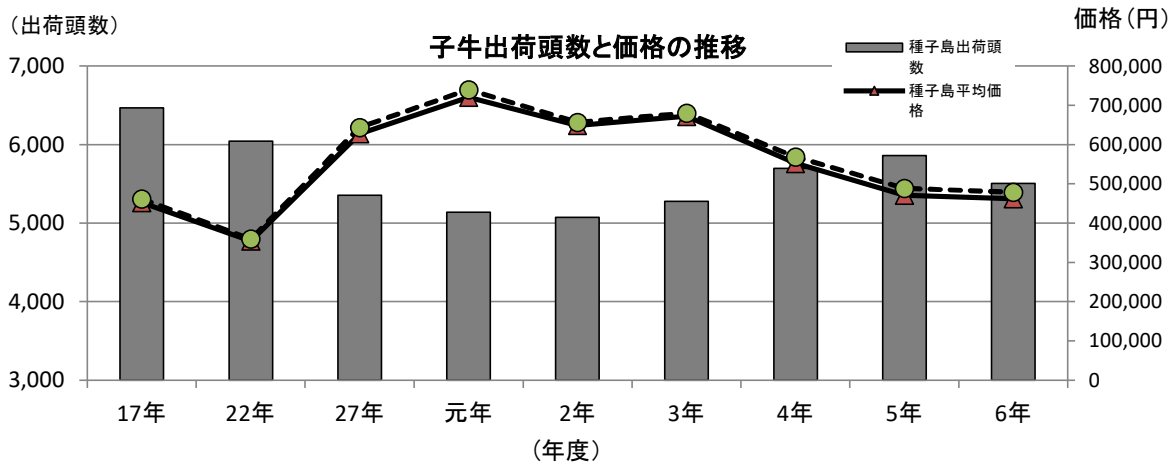
子牛価格は、平成22年4月に宮崎県で発生した口蹄疫により、家畜等の移動や出荷が制限されたため、大きな影響を受けた。

平成25年度以降は、子牛価格は回復・上昇し、平成28年度にピークとなった。

平成29年度以降も堅調な相場が継続してきたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響や資材価格の高騰により、肥育経営の収益性が厳しい状況にあることから、子牛価格は下降傾向にある。令和6年度の種子島家畜市場は461千円（前年度比97.9%）、県平均価格は479千円（同98.1%）であった。

当市場は、地理的に不利な離島の子牛市場であるが、購買者への運賃助成や輸送事故補償制度を実施するとともに、日齢が若く、かつ良好な発育をした品質の高い子牛を上場していることから、購買者の評価が高く、県内本土市場との価格差はない。

なお、平成19年から屋久島市場を休止、平成25年から口永良部市場も休止し、現在は全頭が種子島家畜市場へ上場されている。



子牛価格（売却）の年度別推移

単位：円(税抜)

市場名	年度	17年	22年	27年	2年	3年	4年	5年	6年
種子島	雌	413,448	323,803	580,972	602,770	606,934	494,206	407,993	391,440
	去勢	488,837	380,535	665,640	681,755	719,446	594,618	522,887	519,975
	平均	452,255	354,251	627,544	648,703	671,687	552,385	471,098	461,357
屋久島	雌	366,531	※種子島に実績が含まれる。						
	去勢	470,358	※種子島に実績が含まれる。						
	平均	413,616	※種子島に実績が含まれる。						
口永良部	雌	275,485	※種子島に実績が含まれる。						
	雄(去勢)	255,717	※種子島に実績が含まれる。						
	平均	265,963	※種子島に実績が含まれる。						
県平均	雌	422,510	325,163	598,415	605,447	620,940	507,832	423,040	412,590
	去勢	498,901	387,880	681,792	694,865	724,231	615,938	542,288	533,586
	平均	461,561	359,399	644,153	657,130	680,089	568,601	488,140	478,829

注1) 子牛価格はJA種子屋久、経済連、県畜産課資料

注2) 平成22年以降の屋久島市場、口永良部市場は種子島市場に含む

注3) 平均は雄を含む

子牛出荷頭数（売却）の推移

(単位：頭)

市場名	年度	17年	22年	27年	2年	3年	4年	5年	6年
種子島	雌	3,143	2,800	2,409	2,122	2,240	2,472	2,641	2,511
	去勢	3,327	3,245	2,945	2,949	3,037	3,227	3,218	2,995
	合計	6,470	6,045	5,354	5,071	5,277	5,699	5,859	5,506
屋久島	雌	146	※種子島に実績が含まれる。						
	去勢	131	※種子島に実績が含まれる。						
	合計	277	※種子島に実績が含まれる。						
口永良部	雌	99	※種子島に実績が含まれる。						
	雄(去勢)	92	※種子島に実績が含まれる。						
	合計	191	※種子島に実績が含まれる。						
合計	雌	3,289	2,800	2,409	2,122	2,240	2,472	2,641	2,511
	去勢	3,458	3,245	2,945	2,949	3,037	3,227	3,218	2,995
	合計	6,747	6,045	5,354	5,071	5,277	5,699	5,859	5,506

注1) 子牛売却頭数はJA種子屋久、経済連、県畜産振興課資料

注2) 平成22年以降の屋久島市場、口永良部市場は種子島市場に含む

注3) 合計は雄を含む

(4) 乳用牛

ア 飼養動向

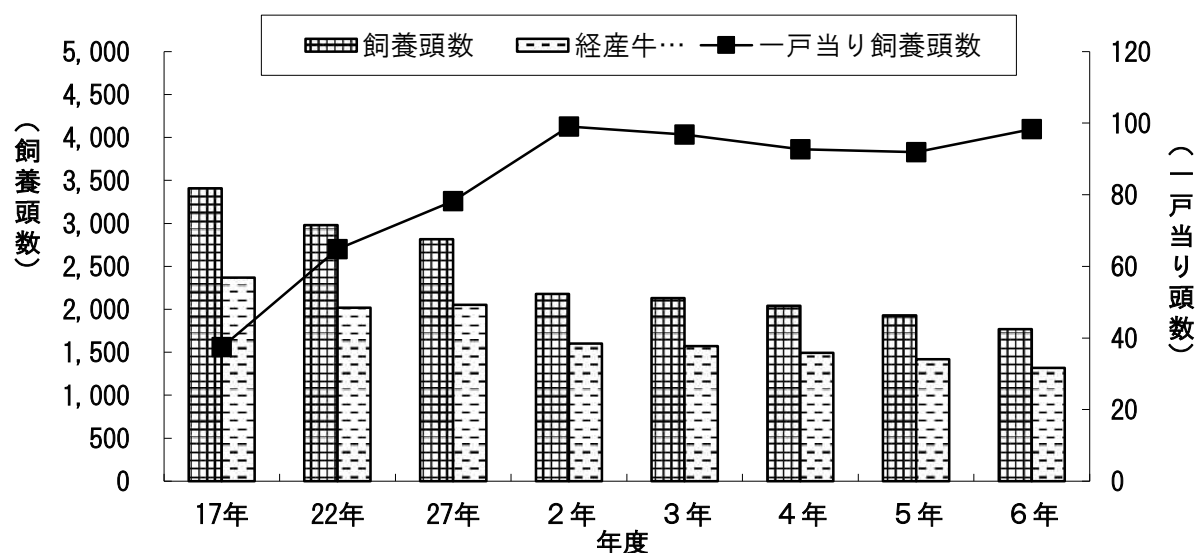
令和6年度の飼養戸数は育成農家を含め18戸で、飼養頭数は1,770頭（対前年比91.7%）、うち経産牛は1,320頭（同93.0%）となり、前年より微減し、1戸当りの飼養頭数は98.3頭（同110%）となった。

地域の特徴として、過去には育成牛のみ飼養する経営体も多かったが、高齢化などの理由により減少してきている。

一方、搾乳する経営体の飼養頭数は平成27年以降、導入牛の高値推移や離農等により減少しているが、肝属地域に次ぎ、県内2番目の頭数規模を維持している。

なお、屋久島町（旧上屋久町）では平成11年12月に1牧場が廃止され、乳用牛は飼養されていない。

乳用牛の飼養頭数の推移



飼養戸数と飼養頭数の推移

単位：戸・頭数

年度	農家戸数		飼養頭数	一戸当り飼養頭数	経産牛頭数
		うち育成のみ			
17年	91	15	3,410	37.5	2,370
22年	46	12	2,980	64.8	2,020
27年	36	10	2,817	78.3	2,053
2年	22	3	2,180	99.1	1,600
3年	22	3	2,130	96.8	1,570
4年	22	3	2,040	92.7	1,492
5年	21	3	1,930	91.9	1,420
6年	18	3	1,770	98.3	1,320

注1) 平成17年まで九州農政局鹿児島農政事務所「畜産統計」

注2) 平成22年以降鹿児島県畜産振興課調べ、熊毛支庁調べ (R7.2.1)

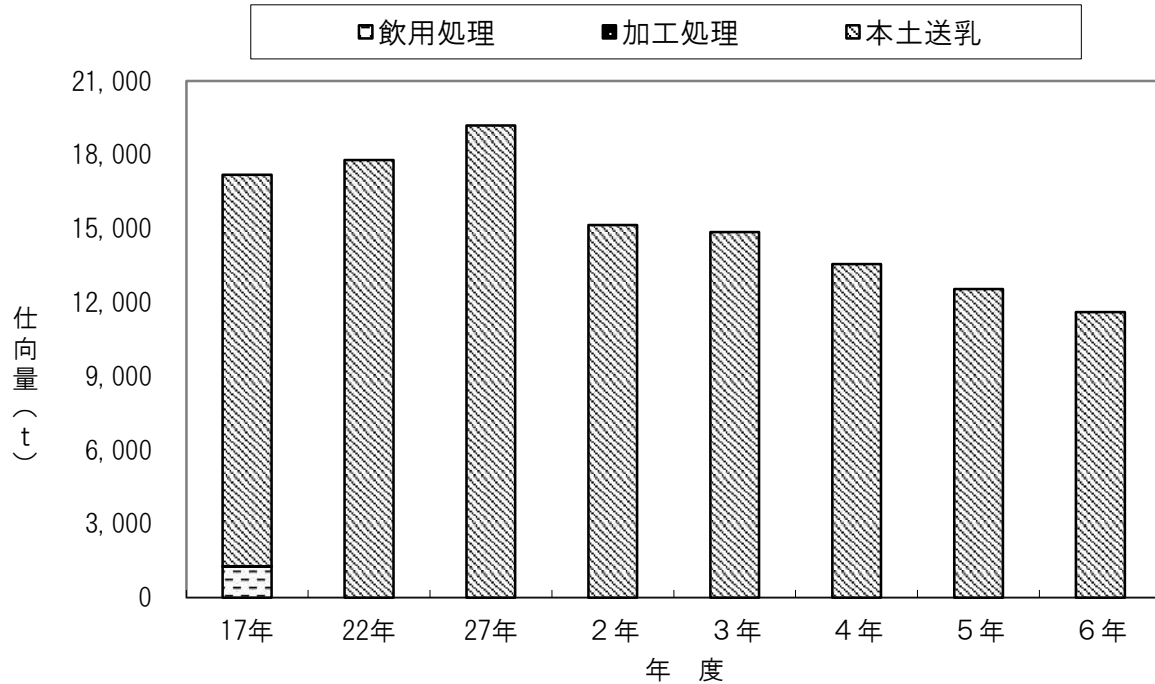
イ 生乳生産量と処理仕向割合の推移

令和6年度の生乳生産量は11,601 t（対前年比92.6%）と減少した。

平成17年度まで種子島工場において、一部の生乳を飲用・加工処理していたが、平成18年以降は都城工場で飲用・加工処理を行っており、生乳は全量が本土送乳となっている。

（注） 屋久島工場は平成11年12月に閉鎖。
種子島工場は平成18年以降処理加工していない。

生乳生産量と仕向量



生乳生産量と処理仕向割合の推移

単位：t

年 度	生産量	飲用処理	加工処理	本土送乳
17年	17,184	1,247	18	15,919
22年	17,776	0	0	17,776
27年	19,189	0	0	19,189
2年	15,137	0	0	15,137
3年	14,848	0	0	14,848
4年	13,557	0	0	13,557
5年	12,534	0	0	12,534
6年	11,601	0	0	11,601

注1) 生産量(販売乳量)は各市町調べ(県酪農協種子島支所)データ

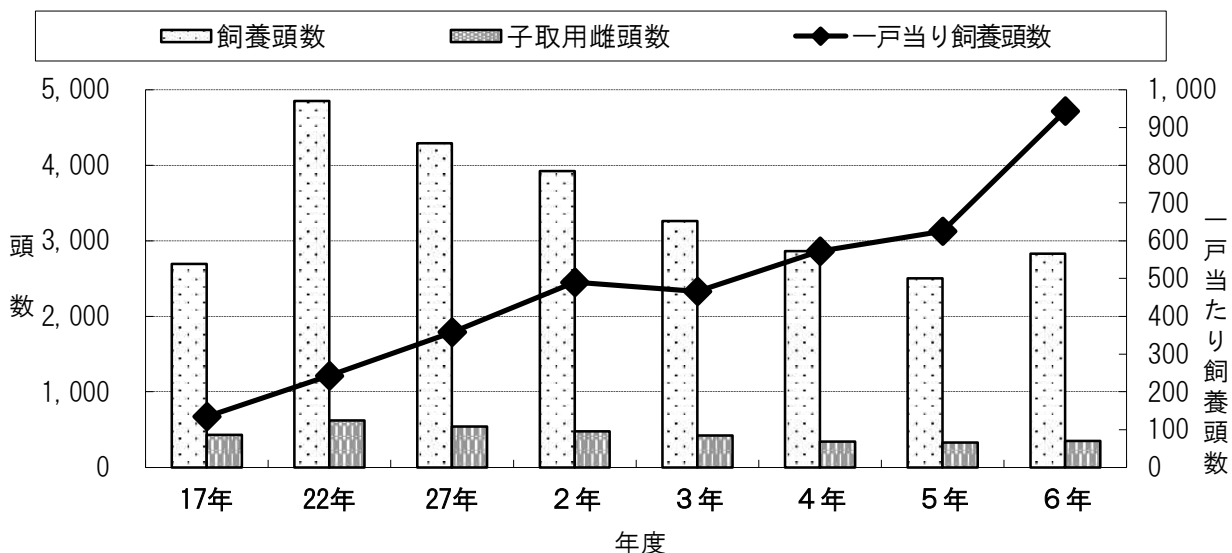
注2) H17年度の処理仕向割合は種子島工場集乳分

(5) 豚

本地域の豚は、肉質の優れたパークシャー種（黒豚）が主に飼養されている。

令和6年度の飼養戸数は3戸、飼養頭数は2,830頭（対前年比113.2%）で、うち子取り用雌豚は350頭（同106.0%）となっている。

豚の飼養頭数、一戸当たりの飼養頭数の推移



農家戸数と飼養頭数の推移（熊毛）

単位：戸・頭数

年度	農家戸数	飼養頭数	子取用雌頭数	一戸当たり飼養頭数
17年	20	2,690	430	135
22年	20	4,850	620	243
27年	12	4,290	540	358
2年	8	3,920	480	490
3年	7	3,260	420	466
4年	5	2,860	340	572
5年	4	2,500	330	625
6年	3	2,830	350	943

注1) 平成17年は九州農政局鹿児島農政事務所「畜産統計」

注2) 平成22年以降鹿児島県畜産振興課調べ、熊毛支庁調べ（R7.2.1）

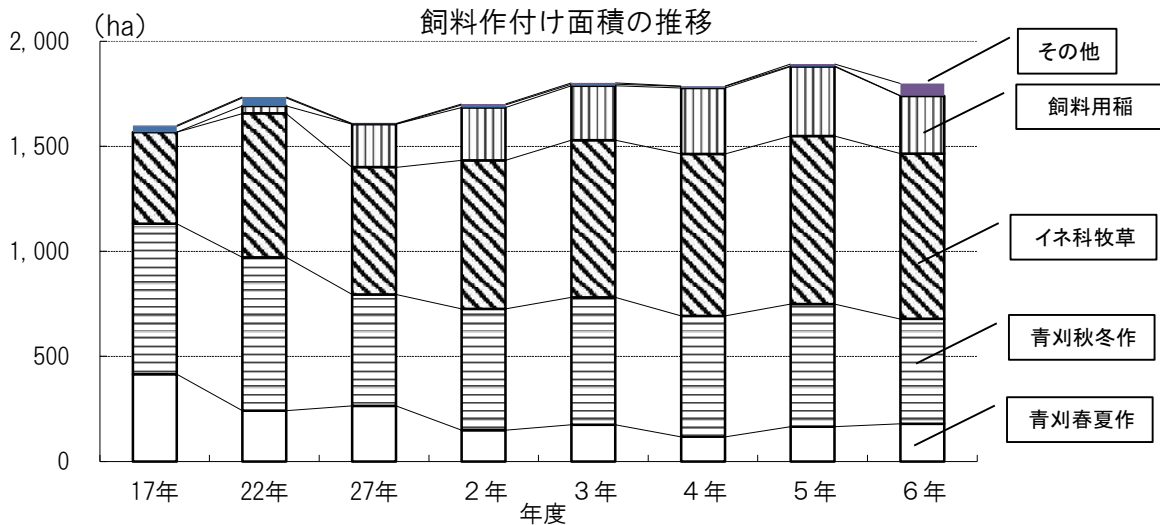
(6) 飼料

ア 飼料作付面積

令和6年の作付面積は、1,799ha（対前年比95.1%）となっている。最近では、ロールベアラーやラッピングマシンの普及に伴い、トウモロコシ、ソルゴーなどの長大作物の作付が減少し、ローズグラスやバヒアグラスなどのグラス系が増加しており、中小の酪農経営や肉用牛繁殖経営では、飼料作物のほかにきびトップ等地域の低・未利用資源を積極的に利用している。

温暖な気候を生かした永年牧草を中心とした飼料作付体制のため、冬場の粗飼料確保が課題である中、粗飼料確保対策として飼料用稲の作付拡大が進んでいたが令和6年は減少した。

現在の配合飼料価格高止まりの状況下においては、自給飼料の重要性が一層、高まっており、飼料生産基盤に立脚した経営の促進が重要である。また、適切な施肥管理等による単収増加を図る必要がある。



飼料作物作付け状況の推移

単位: ha

年度	青刈春夏作	青刈秋冬作	イネ科牧草	飼料用稲	マメ科牧草混播牧草	根菜類実取用	計
17年	416	716	436	0	28	4	1,600
22年	241	730	686	35	38	5	1,735
27年	265	530	606	205	0	2	1,608
2年	149	577	707	252	11	5	1,703
3年	175	607	748	259	8	5	1,803
4年	118	575	770	314	9	1	1,787
5年	165	584	800	332	4	8	1,892
6年	179	500	786	274	2	57	1,799

注1) 平成17年までは鹿児島県畜産課「市町村別畜産統計」、熊毛支庁調べ (R7.2.1)

令和6年市町別飼料作物作付け状況

単位: ha

区分	青刈春夏作	青刈秋冬作	イネ科牧草	飼料用稲	マメ科牧草混播牧草	根菜類実取用	計
西之表市	67	193	243	32	0	11	546
中種子町	76	157	296	36	2	0	567
南種子町	11	138	248	206	0	46	649
屋久島町	25	13	0	0	0	0	38
合計	179	500	786	274	2	57	1,799

イ 農場副産物の飼料利用

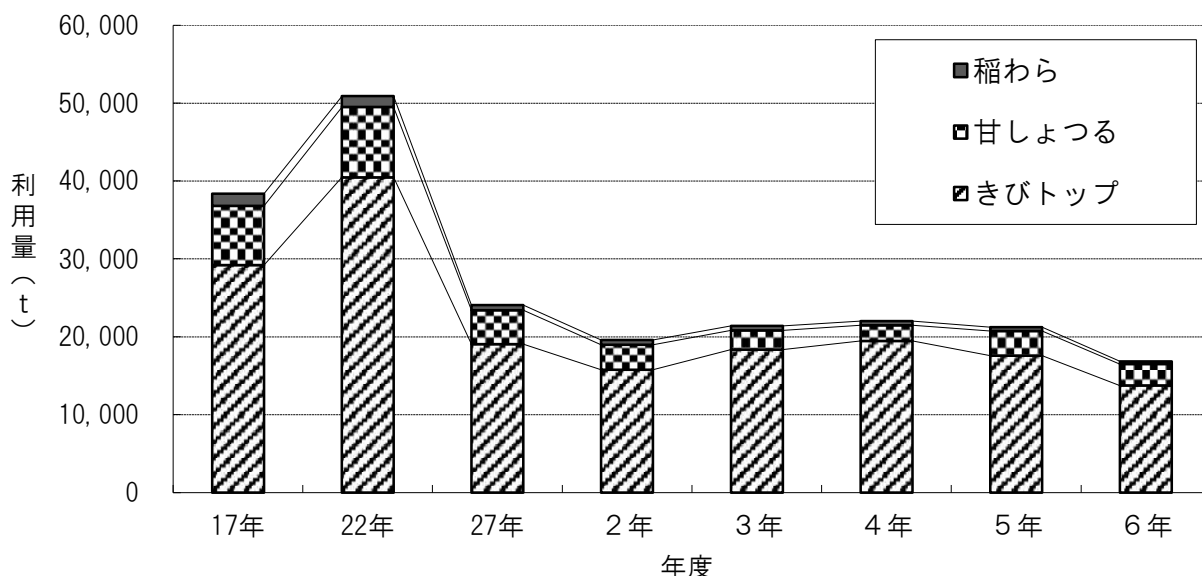
本地域では、基幹作物であるさとうきびやさつまいもの生産過程で発生する、さとうきび梢頭部（きびトップ）、さつまいも茎葉（甘しょつる）、稲わら等が、家畜の飼料として利用されている。

特に、肉用牛繁殖経営においては、これらの副産物の利用により、冬場の粗飼料不足を補いながら飼料費の低減に努めている。

さとうきびにおいては、ハーベスターによる収穫面積の増加によりきびトップの発生量が減少しており、令和6年の飼料利用量は13,745 t（対前年比78.2%）となり、前年より減少した。

今後も、これらの農場副産物の有効利用と併せて、でん粉粕、焼酎粕等の利用を高める必要がある。

農場副産物の飼料利用量の推移



農場副産物等の飼料利用状況

(単位: t)

年度	きびトップ	甘しょつる	稲わら	計
17年	29,216	7,571	1,572	38,359
22年	40,476	9,011	1,386	50,873
27年	19,040	4,364	665	26,315
2年	15,766	3,183	654	19,603
3年	18,346	2,463	599	21,408
4年	19,448	2,037	515	22,000
5年	17,570	3,153	515	21,237
6年	13,745	2,756	351	16,852

注1) 平成17年は鹿児島県畜産課「市町村別畜産統計」

注2) 平成22年以降は、熊毛支庁調べ

4. 熊毛地域のかごしまブランド

熊毛地域のかごしまブランド製品の団体認定状況

(1) かごしまのレザーリーフファン

団体認定: 令和4年3月31日

※指定年月日: 平成18年6月7日

構成する団体: JA種子屋久(西之表市, 中種子町, 南種子町)



表 令和6年度の生産状況

(単位: ha, 戸, 千本/10a, 千本, 千円)

年度	市町	栽培面積	栽培農家戸数	単収	共販量	共販額
R6	計	8.4	75	36	3,012	116,994
	西之表市	0.5	5	16	85	3,239
	中種子町	2.7	28	48	1,305	52,130
	南種子町	5.1	42	32	1,622	61,625

(2) かごしまのたんかん

団体認定: 令和4年3月31日

※指定年月日: 平成18年6月7日

構成する団体: JA種子屋久(屋久島町)



表 令和6年度の生産状況

(単位: ha, 戸, kg/10a, t, 千円)

年度	市町	栽培面積	栽培農家戸数	単収	共販量	共販額
R6	屋久島町	45.0	110	400	180	81,346

(3) かごしまのマンゴー

団体認定: 令和6年3月29日

※指定年月日: 平成26年5月30日

構成する団体: JA種子屋久(中種子町, 南種子町)



表 令和7年度の生産状況

(単位: ha, 戸, kg/10a, t, 千円)

年度	市町	栽培面積	栽培農家戸数	単収	共販量	共販額
R7	計	0.6	7	271	1.6	4,840

(4) かがしまのブロッコリー

団体認定: 令和4年4月28日

※指定年月日: 令和4年4月28日

構成する団体: JA種子屋久(西之表市, 中種子町)



表 令和6年度の生産状況

(単位: ha, 戸, kg/10a, t, 千円)

年度	市町	栽培面積	栽培農家戸数	単収	共販量	共販額
R6	計	67.6	134	612	413	176,552
	西之表市	8.6	30	582	50	20,335
	中種子町	59.0	104	616	363	156,217

(5) かがしまのばれいしょ

団体認定: 令和6年12月27日

※指定年月日: 令和6年12月27日

構成する団体: JA種子屋久(西之表市, 中種子町, 南種子町)



表 令和6年度の生産状況

(単位: ha, 戸, kg/10a, t, 千円)

年度	市町	栽培面積	栽培農家戸数	単収	共販量	共販額
R6	計	136.7	261	1,587	2,169	551,697
	西之表市	97.7	152	1,807	1,765	470,028
	中種子町	24.0	70	1,072	257	49,408
	南種子町	15.0	39	980	147	32,261

(6) かがしま茶

認定: 平成25年3月18日

認定組織: 種子島松寿園

認定銘柄: たねがしま茶, たねがしま茶 翠, 種子島茶「松寿」